

評価者	防災安全部長	柿崎 雅之
評価者	健康福祉部長	内海 正彦
評価者	都市調整部長	征矢 剛一郎

◎ 評価対象分野・施策の方針

総合計画上の位置付け	分野	防災・安全	施策の方針	地震対策・風水害対策の充実
目標とすべきま ちの姿	耐震化など災害に強いまちづくりが進み、災害時の情報伝達体制も十分に生まれ、市民が避難経路などを十分に理解し、大地震が生じた場合にも、すぐに安全な場所へ避難できるようになっています。また、避難場所までの避難路は、建物の倒壊による閉塞をきたさないよう、機能が確保されています。 帰宅困難者に対するものを含めて、十分な避難所や災害物資が確保されています。 また、災害時要援護者に対する共助などを含めて、自主防災組織を中心とした、市民同士の助け合いが行われます。また、被災した場合には、災害支援協定を結んでいる他市からの支援があり、市民はこれらの支援を受け、より安心して災害対応できる状況となっています。 さらに、台風や集中豪雨などの風水害が発生した場合でも、がけ・急傾斜地に対する防災工事が適切に行われており、市民の生命・財産は安心して守られている状況になっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	15.2%	平成27年度	13.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性

		お金の使い方			お金の使い方			<p><妥当性の分析></p> <p>◎防災安全部 お金の使い方、仕事の効果ともに「ちょうどよい」と答えた割合が平成27年度は約36%と、選択肢の中では最も多くなっている。次に多いのは、お金が「足りない」、効果「不十分」の32%であり、市民意識では、ちょうどよいという印象とお金が足りておらず効果は不十分という印象が強い状況であると捉えることができる。 お金の使い方と仕事の効果両方が「ちょうどよい」と答えている人の割合が最も高いことは、市民の理解を得ているものであり、お金が足りておらず効果は不十分と答えた人が次に多いことから、防災意識は市民に浸透しており、更なる施策への期待と考えられる。</p> <p>◎健康福祉部 平成27年度は、お金の使い方、仕事の効果が「ちょうどよい」と答えた割合が35.9%と、前年度と比べて微増し、また、「足りない」、効果「不十分」と答えた割合も32.0%と高い傾向となっている。 経年的には、こうした傾向にあまり変化は見られない。近年の自然災害発生により、取組への関心が高まっていると考えられる。</p> <p>◎都市調整部 仕事の効果とお金の使い方の組み合わせでは、仕事の効果が「ちょうどよい」、かつお金の使い方が「ちょうどよい」の一番バランスがとれている回答の割合が35.9%となっている。続いて、仕事の効果が「不十分」、かつお金の使い方が「足りない」が32.0%となっている。また、仕事の効果が「不十分」、かつお金の使い方が「足りない」の32.0%については、54の施策のうち、最も高い施策になっている。 このことから、当該施策の一層の拡充を求める市民意識が読み取れる。</p>		
仕事の効果	必要以上の効果	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	仕事の効果	必要以上の効果	使いすぎ		ちょうどよい	足りない
	ちょうどよい	0.7%	0.9%	0.9%		ちょうどよい	0.3%		1.0%	0.7%
	効果不十分	0.9%	34.1%	2.6%		効果不十分	1.4%		35.9%	2.6%
		2.2%	4.2%	32.2%			2.4%	3.7%	32.0%	
		平成26年度			平成27年度					
		全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)								

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成26年度	47.8%	29.8%	2.4%	20.1%	100.0%
平成27年度	48.1%	31.2%	1.4%	19.3%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成27年度の目標

◎防災安全部

鎌倉市地域防災計画に基づき、施設整備や備蓄の推進、自主防災組織への支援などの取組を進めつつ、津波シミュレーション動画の作成や津波避難計画地区別実施計画の策定、危険箇所マップの作成などの新たな取組を通じて、より効果的な手法を取り入れつつ、地域防災力の向上を図る。

◎健康福祉部

風水害避難所と地震災害時の避難所(ミニ防災拠点)のあり方を模索するとともに、避難所開設・運営に係るマニュアルの整備を行う。また、予測不可能な自然災害及び火災発生に際し、速やかに情報を取得して納税課職員とともに現地に赴き、被災者と連絡を取りながら援護物資及び見舞金・弔慰金の支給等を行う。また、異常な自然現象により被害を受けた世帯に対し、生活の立て直しに資するため、災害援護資金の貸し付けを行う。

◎都市調整部

鎌倉市耐震改修促進計画を見直す。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
		平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	平成26年度	平成27年度	事業内容	予算規模
防安-02	防災運営事業	6,066	2,141	10,164	6,404	0.5	0.5	b	B
防安-03	災害時広報事業	18,942	21,310	23,040	25,573	0.5	0.5	b	B
防安-04	災害対策本部機能強化事業	21,020	12,494	29,215	21,021	1.0	1.0	b	B
防安-05	避難対策推進事業	21,990	26,502	30,185	35,029	1.0	1.0	a	A
防安-06	津波対策推進事業	8,382	11,343	16,577	19,870	1.0	1.0	a	B
防安-07	防災活動事業	15,196	19,483	19,294	23,746	0.5	0.5	b	B
防安-08	がけ地対策事業	82,307	94,581	102,795	115,898	2.5	2.5	b	B
健福-05	災害救助事業	4	1	3,821	3,872	0.5	0.5	a	B
健福-16	災害救助事業	1,920	800	3,425	2,337	0.2	0.2	b	B
都調-04	建築相談事業	5,771	17,944	20,578	33,074	2.0	2.0	a	A

(3) 主な実施内容

<p>【主な実施内容】</p> <p>◎防災安全部 屋外備蓄倉庫の設置や災害対策用物品等を備蓄した。(防安-05) 津波シミュレーション動画を作成した。(防安-06) 津波避難計画地域別実施計画を策定した。(防安-05) 防災行政用無線のデジタル化に向けた事前調査業務を実施した。(防安-03) 災害時の情報収集環境の充実を図るため、公衆無線LANを設置した。(防安-03) 避難行動要支援者対策として、全市対象者に意向確認を行い、名簿を作成した。(防安-05)</p> <p>◎健康福祉部 <福祉総務課> 台風接近による風水害に備え、市内小学校に避難所開設の準備を行った。(健福-05) 職員の応援体制について職員課と協議・検討を行った。(健福-05) <生活福祉課> 火災によるり災世帯6世帯に対し、援護物資及び見舞金・弔慰金の支給を実施した。また、鎌倉市小災害見舞金等の支給要綱の一部改正を行い、生計の中心者が亡くなった場合の弔慰金額100万円だったものを一律50万円に改正し、平成28年4月1日から施行した。(健福-16)</p> <p>◎都市調整部 鎌倉市耐震改修促進計画を改定した。</p> <p>【実施できなかった事業とその理由等】</p> <p>◎防災安全部 地区別危険箇所マップの作成は、神奈川県調査が遅れたため、翌年度に繰り越した。(防安-05)</p> <p>◎健康福祉部 <福祉総務課> 継続的に協議できず、職員課との職員応援体制に係る検討が途中となっている。(健福-05)</p>

(4) 平成27年度の取組の評価

<p>◎防災安全部</p> <table border="1"> <tr> <td>効率性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>妥当性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> </table> <p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> 鎌倉市地域防災計画に基づき、施設整備や備蓄の推進、自主防災組織への支援などの防災施策の推進が図れた。避難行動要支援者対策として、全市対象者に意向確認を行い、支援体制構築のため基礎資料となる名簿を作成した。防災行政用無線の難聴対策として屋外子局スピーカー交換を実施するとともに、各種補完対策、とりわけ防災メールの自動配信化が具現化できた。津波シミュレーション動画を作成して、市民等に啓発を図った。</p> <p>◎健康福祉部</p> <table border="1"> <tr> <td>効率性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>妥当性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> </table> <p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等></p> <p>◎都市調整部</p> <table border="1"> <tr> <td>効率性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>妥当性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか</td> <td>■ 適切</td> <td><input type="checkbox"/> 要改善</td> </tr> </table> <p><上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> 鎌倉市耐震改修促進計画の改定を行った。耐震相談件数が大幅に向上した。</p>	効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善	公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	<input type="checkbox"/> 要改善																																													

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

◎防災安全部

鎌倉市地域防災計画に基づき、施設整備や備蓄の推進、自主防災組織への支援など、防災施策を進める。
法や制度の改正に基づく国や県の動向を注視し、新たに示される知見などの情報を収集しつつ、施設整備や防災意識啓発などハード・ソフト両面の防災対策が進むよう取り組んでいく。

◎健康福祉部

近年の自然災害発生による取組への関心の高まりを意識し、体制整備に努める。

◎都市調整部

引き続き、制度の見直し等を行うことで市民の利便性の向上を図り、戸建て住宅やマンションの耐震診断や耐震改修を更に促進していくとともに、平成28年度から開始する避難路沿道建築物耐震診断も促進していく。

4 平成28年度の目標

◎防災安全部

「自助」「共助」「公助」の役割分担と連携及び減災の視点に基づく災害に強いまちづくりをめざし、地域防災計画に基づく防災対策を推進する。

災害時広報として、防災行政用無線デジタル化に向けた準備作業を引き続き行うほか、災害時の情報環境整備として公衆無線LANの整備を進める。

災害時の避難対策として、避難行動要支援者名簿の活用に向けた取組を進める。

平成27年度の津波避難計画、シミュレーション動画の活用による具体的な避難対策を推進する。

風水害対策の推進を図るため、地区別危険箇所マップの全戸配布を行う。

◎健康福祉部

<福祉総務課>

風水害避難所と地震災害時の避難所(ミニ防災拠点)のあり方を模索するとともに、避難所開設・運営に係るマニュアルの整備を行う。

職員課との応援体制の協議の継続及び防災安全部との津波浸水地区の避難所設置に係る協議を行う。

<生活福祉課>

予測不可能な自然災害及び火災発生に際し、速やかに情報を取得して納税課職員とともに現地に赴き、被災者と連絡を取りながら援護物資及び見舞金・弔慰金の支給等を行う。

さらに、異常な自然現象により被害を受けた世帯に対し、生活の立て直しに資するため、災害援護資金の貸し付けを行う。

援護物資及び見舞金等の支給について、応援職員の確保等も含め、対応を検討していく必要がある。

◎都市調整部

引き続き、制度の見直し等を行うことで市民の利便性の向上を図り、戸建て住宅やマンションの耐震診断や耐震改修を更に促進していくとともに、平成28年度から開始する避難路沿道建築物耐震診断も促進していく。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ)

整理番号	事業名	指標の項目						備考
防安-03	災害時広報事業	防災行政用無線の設置	単位	基	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	設置目標は達成しており、今後は性能向上とデジタル化対応が課題となる。
住民への防災情報の迅速確実な提供のため	目標値	150	150	150	150	150	150	
	実績値	150	150					
	達成率	100.0%	100.0%					
防安-07	防災活動事業	自主防災組織の数	単位	組織	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	目標値は地域のつながり推進課による自治会町内会の数
自助・共助による防災活動の充実のため	目標値	184	183	192				
	実績値	182	183					
	達成率	98.9%	100.0%					
健福-05	災害救助事業	避難所への避難人数	単位	人	指標の傾向		備考	
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H23 18 H24 11 H25 21
実績値のみ記載	目標値							
	実績値	284	1					
	達成率							

整理番号	都調-04	事業名	建築相談事業							
指標の内容	耐震相談					単位	件	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
耐震相談が、耐震化を希望する市民の入り口であるため	目標値	80	80	80	80	80	80			
	実績値	28	69							
	達成率	35.0%	86.3%							

参考 前年度外部評価結果への対応

<p>鎌倉市民評価委員会からの指摘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄の推進、モデル地区での事業取り組みの検証や全市実施に向けた課題の解決などが必要である。 ・更なる津波避難対策の推進、津波避難施設や避難経路などの整備について検討しているが、計画的に実施できるかなどの課題がある。 ・東北大震災のような大規模災害に見舞われたときは、公助のみでは対応しきれない。日頃から地域の自主防災組織、NPO等を含め、災害ボランティアネットワーク機能を動かしておく体制づくりだけでは、いつくるかわからない災害に対応できない。 ・日常の共助、自助意識の高揚と、市民の協力を得ておく必要がある。 ・がけ地対策、急斜面地の多い鎌倉では、スピーディーな事業推進が必要である。 ・風水害対策に関し、地域の特性にあった防災拠点設置を検討されたい。 	⇒	<p>指摘への対応、コメント等</p> <p>◎防災安全部 備蓄については、本年度も購入する。要支援者については、全市域の自治・町内会等へ名簿を配布する。</p> <p>◎防災安全部 昨年度、津波避難計画地域別実施実施計画を策定し、これを基に地域住民の意見を反映しながら実施していく。</p> <p>◎防災安全部 各種訓練を実施し、課題を検証することで対応できるよう準備していく。</p> <p>◎防災安全部 自主防災組織で実施する防火・防災訓練等に協力していく</p> <p>◎防災安全部 相談者と協議を図りながら、速やかに進める。</p> <p>◎防災安全部 他部局と協議を図りながら、庁舎等の新築時に防災に関する検討を進める。</p>
--	---	---

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・防災意識は市民に浸透している。自治町内会も進んで取り組んでいるところがある。
- ・津波シミュレーション動画「鎌倉で津波から生きのびる」は、具体的な映像で、理解を促すインパクトのある、具体的な危険性がストレートに伝わる内容である。
- ・風水害避難所と地震災害時の避難所(ミニ防災拠点)の在り方を模索するとともに、避難所開設・運営に係るマニュアルの整備等も行っている。

		評価の内訳								委員会の評価	
取組	↗	6	↘	0	→	2	⇒	↗			
効果	○	3	△	2	-	3		-			

《課題》

- ・津波シミュレーション動画作成は高評価だが、その活用が今後の課題となる。作成しただけでは意味がないので、より多くの市民が視聴するとともに、海水浴シーズンの避難対策(市外からの来訪者の避難誘導)が早急に求められる。海浜地区住民は災害時の海水浴客のパニックにどう向き合っていくのかシミュレーションできていない。
- ・「自助」「共助」「公助」の役割分担と連携の具体的な役割や災害時に備えた継続的な訓練などが求められる。
- ・様々な場面で「共助」が語られるが、行政的的確なリーダーシップが無ければ実効性を確保出来ない。「要支援者対策名簿の具体的な活用」「自主防災組織運営」では強力な指導が求められる。
- ・「避難行動要支援者意向確認結果」及び「同自治会名簿受領意向結果」を踏まえ、意向を表明していない人の安全確保について検討しておくことが重要である。
- ・災害備蓄倉庫にある物品の消費期限切れに伴う対応をしっかりと行うとともに、支援物資が届くまで十分な量を備蓄することが求められる。
- ・災害見舞金等の金額が100万から50万に減ったが、その効果について明らかになっていない。

《提言》

- ・毎年大きな災害がおきている中、この施策でこれがベストということはない。市が行っている事業を市民へ周知し、安心感を持たせてほしい。取組が見えることが安心感につながり、自分たちでやらなければならないことも見える。
- ・災害時の市民への自助に対する意識高揚は今後も重要であり、熊本の事例なども踏まえた新たな課題の洗い出しと対応の精査をお願いしたい。
- ・東日本大震災から5年が経過しており、防災意識の風化を意識し、引き続き施策を実行していくべきである。今後それをどう活用していくか次第で、効果が逆転しかねないので十分留意してほしい。
- ・3.11以降、南海・東南海トラフ地震を想定した被害対策を継続的に行っていくことが重要である。津波被害対策として津波避難訓練を行ったり、避難経路の整備を進めていくべきである。
- ・鎌倉市は道路幅が狭い場所が多く、非難時に障害となることが予想される。新築・改築等でセットバックされた道路も、適切に管理されていないため、一時的なものとなり、すぐに元の利用形態に戻っているところが多く見受けられることから、建築指導課等と連携し、避難路の確保等にも努めるべきである。
- ・指標には「目標とすべきまちな姿」が実現されているのかが分かる指標を設定すべきである。例えば「災害支援協定を結んでいる他市の数」や「避難所の数」「非難訓練の実施回数」「備蓄量」(市民・旅行者の数に対して)など。